

将来、生徒たちが社会で活躍し、快適に暮らすためには…。

校長 岩本 眞由美

今年の全国高等学校野球選手権大会では、西東京代表として八王子実践高等学校が初出場を果たしました。残念ながら初戦敗退という結果にはなりましたが、ここで少し、同校の素晴らしい取り組みを紹介いたします。

同校の野球部は、専用グラウンドがなく、平日の練習は週3回・各2時間のみという、決して恵まれているとはいえない環境の中で甲子園への切符を掴み取りました。率いる河本ロバート監督は、ロサンゼルス・ドジャースとマイナー契約を結びプレーした経験をおもちです。指導においては「選手の自主性と主体性」を最重視されており、中学生をスカウトする際にも「向上心があり、自分で考えて取り組める子に声をかける」そうです。

現在の生徒たちにとって、この「考える」ということは必要不可欠な要素となっています。本校の授業はもちろん、様々な場面において生徒に「考えさせる」状況を設定し、工夫を凝らした教育活動を行っています。では、なぜ今これほどまでに「考える」ことが重要視されているのでしょうか。

生徒たちが社会で活躍する頃には、少子高齢化や AI 技術の急速な進歩などにより、社会の構造そのものが大きく変化していると予想されます。そうした時代を生き抜くためには、自らが置かれた状況の課題を捉えて判断し、知識や技術を活用して文章や口頭で表現しながら、課題解決に向けて行動する力が求められます。

そのため、生徒たち自身が「将来どのような社会になるのか」を理解しておく必要があります。そして、その社会で充実した生活を送るために必要なものは何か、また、今どんなことを意識して学習や生活を送るべきかを考えてほしいと願っています。先日行われた始業式では、文部科学省が作成した『動画でわかる Society5.0』を全校生徒で視聴し、各自が自分の将来について考える機会を設けました。

また、経済産業省が公表した「未来人材ビジョン」でも、社会で働くために必要な能力が示されています。これまでの企業は「真面目にコツコツと働ける人材」を求めていましたが、2050年に求められる力として挙げられているのは「問題発見力」です。与えられた問題を解決するだけでなく、「そもそも何が問題なのか」を自ら見極める力が今後は求められていくでしょう。

先日、令和8年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。国語の例を挙げると『文章を引用し、内容を基に自分の考えを書くことに課題がある』という結果が出ています。また英語においても、「自分の考えを書いたり話したりする際に、読み手や聞き手に伝わるよう、理由を示すことを意識させることが重要である」と指摘されています。

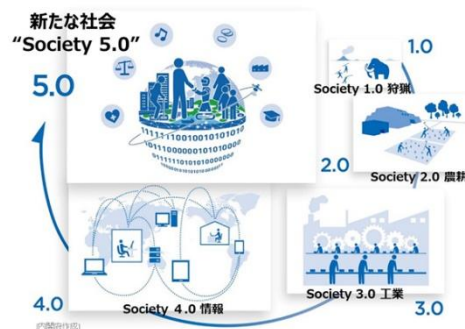
これらの対策としては、常日頃から自分の考えをアウトプットし、まとめておく習慣をつけることが大切です。そのために、ぜひ新聞を活用しましょう。新聞は、自分の興味・関心以外の分野であっても、紙面をめぐるだけで多様な出来事や社会の動きを私たちに示してくれます。

なお、同調査の質問紙調査における「新聞を読んでいますか」という質問に対し、本校の回答結果は以下の通りでした。

ほぼ毎日読んでいる:4.8% 週に1~3回読んでいる:10.6%

月に1～3回読んでいる:10.6% 全く読まない:74.0%

本校では、毎日各教室に新聞が配布されています。この恵まれた環境をぜひ有効に活用してほしいと思います。



現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められる。

56の能力等に対する所要		
2015年		2050年
注意深さ・忍びがなさにこと	1.14	問題発見力 1.52
責任感・しめこみ	1.13	的確な予測 1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性 [※] 1.19
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11	的確な決定 1.12
スピード	1.10	情報収集力 1.11
柔軟性	1.10	客観視 1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル 1.09
粘り強さ	1.09	言語能力・口頭 1.08
基礎的なスキル	1.09	科学・技術 1.07
意欲・積極性	1.09	柔軟性 1.07
		文 1.07

(注) 各職种で求められるスキル・能力の相対度を表す係数は、各項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。